ちょっとそこまで ～お散歩日和（植物編）～

ヒマラヤスギ

光が丘区民センター前のロータリーの中央に、巨大なシンボルツリーとして聳え立っているのがヒマラヤスギです。

当団地内ではありませんが、隣接してよく見かける風景なので触れておきたくなったという次第です。

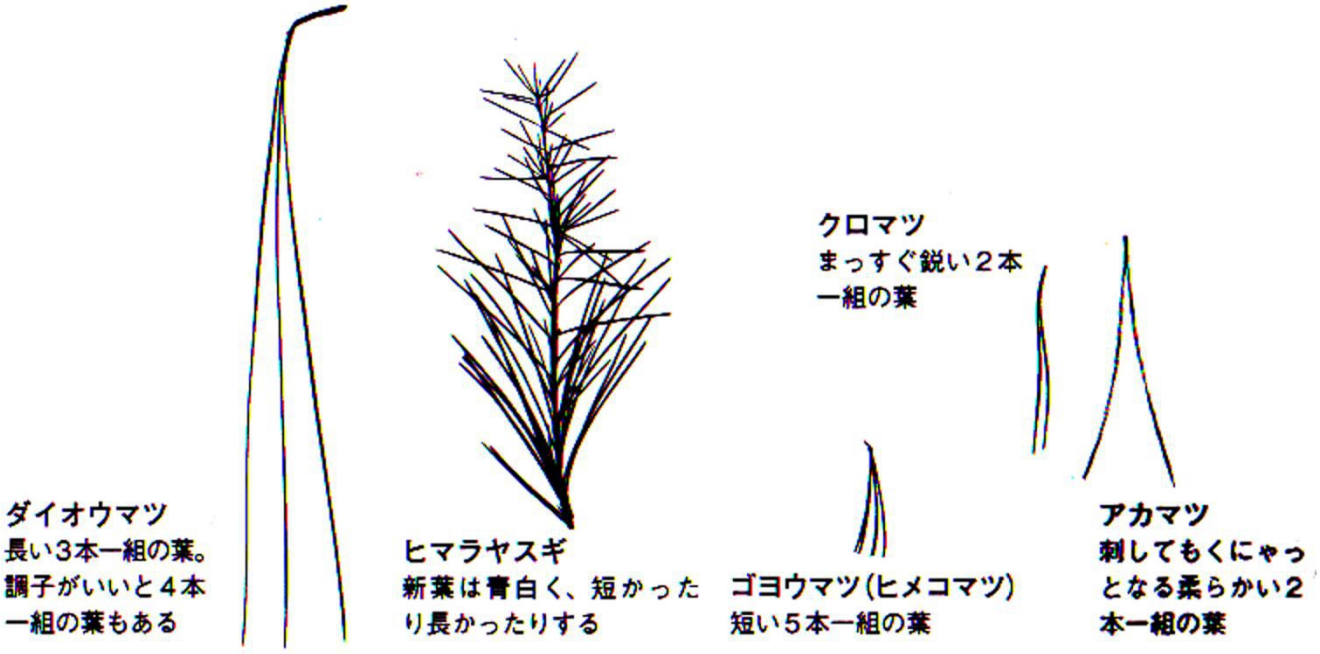
ヒマラヤスギという名前に、誰もが騙されるのですが、マツの仲間です。

これについては、また近いうちに触れようと思っているのですが、光が丘公園のバードサンクチュアリに隣接している鑑賞池（けやき広場）をぐるり囲っている樹木の名前を「落羽松（ラクウショウ）」と言います。四季の香公園で見事な景観を形成しているメタセコイヤに似ている木です。この木の名前に「松（マツ））」と付いてはいますが、こちらはスギの仲間です。「ヒマラヤスギはマツで、ラクウショウはスギ」と、対にして覚えると面白いと思うので敢えて触れました。

さて、ヒマラヤスギに話を戻します。

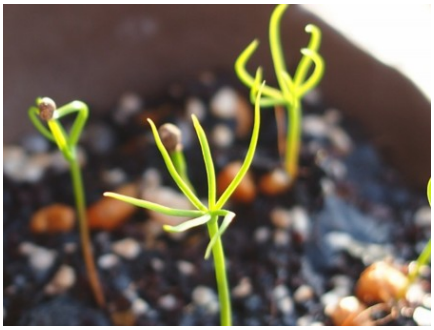
この木がマツの仲間であることは、その針状の葉の形状を見れば、スギよりもマツに近いことが分かります。原産地はヒマラヤの２０００ｍ級の高地だそうで、ヒンドゥー教では、聖なる樹木として崇められていると聞きますが、その威容から考えて無理からぬところです。

ちなみに、マツの葉の数ですが、簡単に言えば、２・３・５本の３種類です。身近なアカマツやクロマツは２本で、５本あると五葉松（ゴヨウマツ）となります。３本あれば、北米原産のマツだとなります。しかし、ここでもヒマラヤスギは個性を発揮します。本数が定まらず複数が輪状に生えています。



ついでに触れると、このマツの子葉もユニークです。一般的に種子植物は双子葉植物と単子葉植物に

分かれていることはご存知の通りですが、マツのような裸子植物の場合、多子葉植物と言って、子葉の数が２～２４まで種類によっても固体によってもさまざまで、そう単純ではありません。



ヒマラヤスギがマツの仲間である理由として、もう１つ挙げたいことがあります。

ちょうど今、このヒマラヤスギに「もののけ姫」に登場する「こだま」たちがずらりと出現しているのをご存知でしょうか。

種明かしをすると、ヒマラヤスギの松ぼっくりです。秋に落下すると、素敵な「シダーローズ」が見られます。

ということで、光が丘公園の芝生広場をお勧めします。広場に北側は完全にヒマラヤスギの森と化しています。その下の四阿（あずまや）にはいつも将棋好きが集って縁台将棋を繰り広げていますが、どの木にも巨大な松ぼっくりがたわわに実っています。

今年の秋は、シダーローズ狙いで、ちょっと芝生広場まで足を延ばしてみてはいかがでしょうか。

（終）